

議事録

作井技術委員会 事務局

平成 25 年度 第 3 回運営幹事会

開催日時：平成 25 年 11 月 12 日（火）16：00～18：10

開催場所：国際石油開発帝石（株）32 階 06 応接室

出席者：池田、浦野、武村、日野、石黒（原田代理）、福嶋（直）、佐藤、長縄、菅野（博）、古谷、豊田。

欠席者：田村、石井、原田、福嶋（睦）。

議題 1：報告事項

1) 大水深掘削技術分科会：古谷座長

- ・来年 3 月に開催される IADC/SPE 年次会合で文献が多数発表されるので、それを題材に次回会合を今年度中に開催したいと考えている。

2) HSQE 分科会：古谷代理

- ・前回 9 月 11 日の会合でメンバーから「メキシコ湾原油流出事故の状況を自分ならどうしたか？」を各メンバーから集め、勉強会を実施しよう」との提案があったが、2 ヶ月たっても数人からしか集まっていない。集まり次第、進める予定。

3) 協会ホームページ委員会：浦野委員

- ・委員会の目的である会員へのサービス拡充を図るために、来年早々に会員にホームページへの要望アンケート調査を実施する旨話したところ、会誌への不満の声が聞かれた。

4) 協会理事会・幹事会：池田理事

- ・理事選挙、協会賞の締め切り、春季講演会の個人講演締め切りなどが報告された。

5) 80 周年記念出版委員会：池田委員

- ・未だに原稿を提出しない執筆者にお断りし、新たな執筆者を選定するなど、遅れている編纂作業に対処している。

議題 2：平成 26 年度春季講演会の作井部門シンポジウムテーマ

- ・2002 年の「掘削トラブルからの教訓」から 10 年たったので、「失敗」をテーマとして取り上げ、失敗学の基調講演の後にディスカッションを行う案が出た。そのためには、まず「失敗学会」の講師による特別講演を受けて作井技術委員会で勉強し、失敗に関するシンポジウムの骨格を検討する等、時間をかけ準備していく。したがって「失敗」は再来年の候補とする。
- ・メキシコ湾原油流出事故の原因は、未だに BP の調査結果のみが真実と認識されている傾向が強いが、本当にそうなのかという疑問があり、HSQE 分科会でも題材にしている。事故から 3 年半もたっているのに、本邦の掘削技術者が皆事故の本質を理解し、きちんと対応できているとは思えない。この現状を打破するべく、HSQE 分科会でも邦訳している米

大統領報告書などの資料を、運営幹事も加わって精査を進め、「メキシコ湾原油流出事故の精査から掘削技術者が学んだこと（仮題）」を来年度のテーマにすることで合意した。シンポジウムの進め方等、内容はこれから詰める。

議題 3：懸案事項

1) 1月上旬から中旬に運営幹事会を九州大学で開催するかの検討

- ・これから進路を決める学生に対して、作井業界に興味を持ってもらうことが目的。作井技術委員会として学生に対してプレゼンする内容も詰める必要があるし、各社リクルート説明会と混乱する可能性も考え時期も熟慮する必要があることから、1月開催は見送り、もう少し作戦を練ることにした。

2) 次回の異業種情報交換会をいつ、どのように開催するかの検討

- ・今度は、当方（作井技術者）から異業種に対しての要望を伝える会にしたいため、運営幹事は一ヶ月以内に要望を事務局に提出して、その結果に基づいて、実施するか検討する。会社の業態によっては、あまり出てこない懸念も表明された。

以上